

科目名	神経難病理学療法学演習【理学】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	古 後 晴 基						
開講年次	3	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必修（理学）
授業の概要 及びねらい	神経に起因する運動障害に対して理学療法（評価・運動療法・物理療法・徒手療法・ADL指導・生活環境支援）を概説し、演習を行いながら理学療法技術を説明する。						
授 業 の 到達目標	1) 神経の解剖・生理・運動学を理解する。 2) 神経筋疾患の病理学を理解する。 3) 感覚分離する疾患を理解する。 4) 変性疾患を理解し、理学療法の評価と治療が論理的に述べることができる。 5) 脱髄疾患を理解し、理学療法の評価と治療が論理的に述べることができる。 6) 神経筋接合部疾患を理解し、理学療法の評価と治療が論理的に述べることができる。 7) ニューロパチーとミオパチーを理解し、理学療法の評価と治療が論理的に述べることができる。						
学習方法	講義（演習を含む）						
テキスト及び参考書等	テキスト：理学療法テキスト神経障害理学療法学Ⅱ（中山書店） その他の資料は授業の進行に合わせて配布する。						
評価基準・方法	到達目標						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現	評価割合%		
定期試験	◎	◎			80		
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎	○	10		
受講者の発表							
授業への参加度			◎	○	10		
その他							
合 計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	脳の構造と機能（1）大脳基底核						
第 2 週	脳の構造と機能（2）小脳						
第 3 週	脳の構造と機能（3）脳幹						
第 4 週	パーキンソン病（PD）の病態						
第 5 週	パーキンソン病（PD）に対する理学療法						
第 6 週	パーキンソン病（PD）に対するリハビリテーションの実際						
第 7 週	運動失調の病態						
第 8 週	運動失調に対する理学療法						
第 9 週	運動失調に対するリハビリテーションの実際						
第 10 週	頭部外傷・脳腫瘍の病態						
第 11 週	頭部外傷・脳腫瘍に対する理学療法						
第 12 週	多発性硬化症（MS）の病態						
第 13 週	多発性硬化症（MS）に対する理学療法・リハビリテーションの実際						
第 14 週	筋萎縮性側索硬化症（ALS）の病態						
第 15 週	筋萎縮性側索硬化症（ALS）に対する理学療法・リハビリテーションの実際						
第 16 週	試験						
備 考							